

科目名	災害看護（医療）とグローバルヘルス特論	担当教員	高橋謙造
科目属性	専門科目 D	単位数	2 単位（面接 0.25）
【授業の目的・ねらい】			
【授業概要】			
<p>本講義では、災害対応時に保健医療従事者（公衆衛生関係者を含む）が留意すべき事項を理解し、将来的な災害発生時に実際に災害支援活動に従事しうる能力を習得する。加えて、グローバルヘルス（国際保健）領域において、Hot Issue である事項（SDGs、医療人類学的視点）に関しても習得する。</p>			
【授業の到達目標】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時の支援の流れやステークホルダーについて説明できる ・ 災害時の DOs&DON' Ts や発生しうる保健医療の課題について説明できる。 ・ スフィア（SPHERE）・スタンダードについて説明できる。 <p>SDGs、医療人類学的視点に基づき、災害看護について説明できる。</p>			
【授業計画】			
1. 災害看護（医療）とは（1～3回相当）			
(1) 災害支援時に理解しておくべき要素			
① 災害のフェーズと支援ニーズについて説明できる。			
② 災害支援の流れについて説明できる。			
(2) 災害における保健医療の位置づけ			
① 看護（医療）の役割を説明できる。			
② 公衆衛生従事者の（行政官、保健師等）の役割について説明できる。			
(3) 日本の支援メカニズム			
① DMAT、JDR 等の支援組織と機能について説明できる。			
2. 災害看護（医療）の現場での実践に学ぶ（4～7回相当）			
(1) DOs & DON' Ts			
(ア) 現場において行うべきこと(Dos)について説明できる。			
(イ) 現場において行うべきでないこと(DON' Ts)について説明できる。			
(ウ) Good Practice の実例について説明できる。			
(2) 現場で発生する課題を予測する。			
(ア) 外傷等への対応			
(イ) 感染症対策			
(ウ) 精神保健対策(PTSD、うつ等)			
(エ) 母子保健対策			
(オ) 既存の疾患への対応(慢性疾患等)			
3. スフィア（SPHERE）・スタンダードについて理解する（8～9回相当）			
(1) 保健医療分野での基準について説明できる。			
(2) その他、住環境等の基準について説明できる。			
4. グローバルヘルス（国際保健）領域における教訓（10～13回相当）			
(1) 援助の押し付け（失敗）事例と、成功事例			
① 文化のコンテキストに合わせた支援のあり方について説明できる。			
(2) Child Protection（子どもの保護）の必要性和成功事例			
① 「子どもの保護」が必要な理由を説明できる。			
② 「子どもの保護」に必要な関係者（ステークホルダー）を説明できる。			
(3) 国際 NGO とエビデンス			
① NGO が現場経験から積み上げて来たエビデンスを説明できる。			

5. 課題研究(14~15回:スクーリング:SDGsと医療人類学的視点の習得)

- (1) 主として4.で習得した内容に基づき、災害看護のみならず、日常の看護業務を検証しうる。
- (2) これまでに関わった看護業務について、医療人類学的視点から説明することが出来る。

【評価方法】

「スクーリング評価(レポート含む)」(50%)、「科目修得試験(レポート)評価」(50%)の割合で総合して評価する。

【教科書】

1. スフィア・ハンドブック2011年版 <http://www.refugee.or.jp/sphere/>
2. 災害時の公衆衛生—私たちにできること— 國井 修 編

【参考図書】

1. 兵庫行動枠組(Hyogo Framework for Action) http://www.unisdr.org/files/1037_wakugumi1.pdf
2. いのちの文化人類学 波平恵美子 著 朝日選書
3. 「医療人類学」 フォスターM(本書籍は中古でのみ入手可能であるが、以下の Web サイトで全文読むことができる)

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/FAMA2013-00.html>